

めでいかすとり *Médicastre*



「雷鳥と散歩」

鶴岡地区医師会

28年 **11**月号

観楓会、米寿・喜寿のお祝い

日時：平成28年10月21日(金) 19：00～
場所：ベルナール鶴岡

月山や鳥海山の初冠雪が聞かれ、紅葉で色づき始めた10月21日、ベルナール鶴岡に於いて、観楓会、米寿・喜寿会員の祝賀会が開催されました。

三浦道治先生の司会進行のもと、土田会長の挨拶につづき、来賓の山形県医師会会長徳永正靱先生、酒田地区医師会十全堂会長栗谷義樹先生からご挨拶をいただきました。

次に土田会長から米寿を迎えられました藤吉欣也先生（代理で藤吉令先生が出席）、喜寿を迎えられました佐藤洋司先生、三浦宏平先生のご紹介とご出席いただきました先生方に賀詞・記念品の贈呈が行われました。続いて、ご出席されました先生方よりひとことご挨拶がありました。

次に、新入会員のこころの花クリニックの石黒慎先生、鶴岡市立荘内病院の佐藤みさお先生のご紹介とご出席された石黒先生からご挨拶があり、福原副会長の乾杯のご発声のもと、和やかに宴が始まりました。今年の出席者は、来賓7名、会員37名、職員16名の総勢60名で、日頃診療等で忙しい先生方が一同に集い、親睦を深める良い機会となりました。来年もより一層賑やかで楽しい会になるよう、また米寿・喜寿会員の先生方をお祝いするためにも会員の先生方から多数ご出席いただければと思います。宴もたけなわの中、小野副会長の一本締めで閉会となりました。

地域包括支援センターつくし
長谷川 典子



ご出席いただいた先生



藤吉 令 先生
(藤吉欣也先生の代理出席)



佐藤洋司 先生



三浦宏平 先生



石黒 慎 先生



鶴岡地区医師会勉強会抄録

日時：平成28年10月3日(月) 19:00～20:30
場所：鶴岡地区医師会館 3 階講堂

『ウイルス感染症の流行動態 ～山形県における呼吸器ウイルス感染症の疫学研究からわかったこと～』

山形県衛生研究所
所長 水田 克巳 先生

私は、国立仙台病院（現在の仙台医療センター）でウイルス感染症の勉強を始め、1999年4月に山形県衛生研究所（山形衛研）に赴任してからも、それまで学んだウイルス分離を活かし、中長期的な呼吸器ウイルス感染症の疫学研究を続けています。

山形衛研で検査体制が整ってきた2003年に論文“Re-emergence of echovirus type 13 infections in 2002 in Yamagata, Japan”を出すことができました。2002年に50株のエコーウイルス13型（Echo13）を分離しましたが、Echo13は日本で1981年に国内サーベイランスが始まって以降報告がありません。しかし世界保健機関によれば1970年代までは検出があったとされます。実は2000年以降、欧米でもEcho13が検出されており、1970年代とは遺伝子配列が異なる（変異した）Echo13が21世紀初頭から再出現して世界へ広まり、山形でその一端を捕えたのだろう、という趣旨を論文にしたのです。この時、山形から世界で起こっている感染症をかいま見ることができる可能性を感じとりました。

エンテロウイルスA71型（EV-A71）は、予後のよい、小児の手足口病の病原ウイルスの1つでした。しかし、20世紀後半から、主に東南アジアで多くの小児で脳炎などの重症化をおこし公衆衛生上大きな問題となりました。私たちはEV-A71の分離株を多数保有していたため、分子疫学研究を実施し、①山形という

“点”で見ると6種類の遺伝子型が入れ替わりながら流行している、②環太平洋という“面”で見ると、山形で観察される遺伝子型は広く環太平洋地域でも観察される（人の移動とともにEV-A71が行き来している）、③環太平洋とヨーロッパの優勢遺伝子型に違いがある、ことなどがわかりました。加えて、異なる遺伝子型間で抗原性に違いはなく、麻疹と同様、良いワクチンができれば遺伝子型にかかわらず有効であろうことを提言しました。

2008年に置賜地域でおきた“流行性筋痛症”では、その病態がヒトパレコウイルス3型（HPeV3）による筋炎であろうことを世界に先駆けて公表することができました。HPeV3による筋炎は、2011年、2014年の山形の流行でも観察され、2014年の流行では山形以外では初めて大阪の症例も報告されました。小児のHPeV3感染症の報告は外国からも多数あるので、外国にもこの病気はきっとあると思うのですが、現在のところ、この病気は日本の風土病という状況にあります。

私たちは、山形県内の患者さんや医療スタッフの皆さまのご協力により、長期にわたるウイルス感染症の疫学研究を続けることができました。ご協力本当にありがとうございます。これらの研究成果が、山形の、日本の、そして世の中の感染症対策の進歩に役だつよう、さらに前進していきたいと思います。引き続きどうぞご支援下さいますようお願い致します。

ほたる主催公開講座

日時：平成28年9月24日(土)13:30～16:00

場所：鶴岡市先端研究産業支援センター レクチャーホール

「精神疾患を知ろう！」 ～精神疾患って？ 発達障害ってどんな病気？～

地域医療連携室ほたる
遠藤 貴恵

地域医療連携室ほたるの活動につきましては、会員の先生方はじめ地域の皆さまのご理解、ご協力誠にありがとうございます。ほたるの事業は、山形県からの補助事業および鶴岡市・三川町からの地域支援事業委託により成り立っております。その事業の一環として、毎年地域住民を対象とした公開講座を開催しています。今年度は2回計画しておりその1回目を去る9月24日(土)の午後、鶴岡市先端研究産業支援センターレクチャーホールを会場に「精神疾患を知ろう！」～精神疾患って？ 発達障害ってどんな病気？～をテーマに開催し、約200名の皆様にご来場いただき盛会裏に終了することが出来ました。



公開講座は2部制とし、第1部は、山形県立こころの医療センター副院長須貝孝一先生、第2部は、おなじく山形県立こころの医療センター精神科認定看護師（領域：児童・思春期精神看護）の渋谷るみさんよりご講演頂きました。



須貝先生は「精神疾患を知ろう！ わかりやすい？ 精神医学入門」と題し、限られた時間で精神疾患を知り尽くすことは難しいという中で、大きくは2つの事例（うつ病、統合失調症）を用いた症状の特徴、それに対して私たちがどのように接すればよいか、また成人してから発達障害の診断を受けたケースなどポイントを絞った形で大変わかりやすいご講演内容でありました。

- ①同じ物質の基盤を有する病気、なのに、精神疾患は身体疾患と比べどうも誤解されやすい。皆、「こういう状況で病気になるのも無理はない」病気の発症を了解可能なものとして捉えてしまう。そこから、しばしば患者さんへのピントのズレた対応が生まれてしまう。
- ②どうしても精神の病気は怖いというイメージが先行しやすいのですが……まずは病気を正しく知る。



③うつ病、統合失調症などの精神病……。精神疾患を有する患者さんと接するのにはいろいろ難しさはある。患者さんの状態を見ながらメリハリある、適度な距離を工夫し、結局、通常の人間関係でも大切なことが精神疾患の患者さんと接するうえでもやはり大切なのではないかな。

とのまとめで締めくくり、第2部の渋谷看護師の講演につなげられました。

渋谷看護師は「発達障害の理解と対応」と題し、専門領域である「こども」の看護の目線から発達障害そのものがどういう病気なのか、その特徴、関わりのポイント、こころの医療センターでの取り組みなど写真等を用いながらわかりやすくご紹介いただきました。渋谷さんは支援する側の立場として「支援者は通訳、モデル、そだちを支える役割があり“待つ”ということが大事である」とのメッセージでまとめられました。

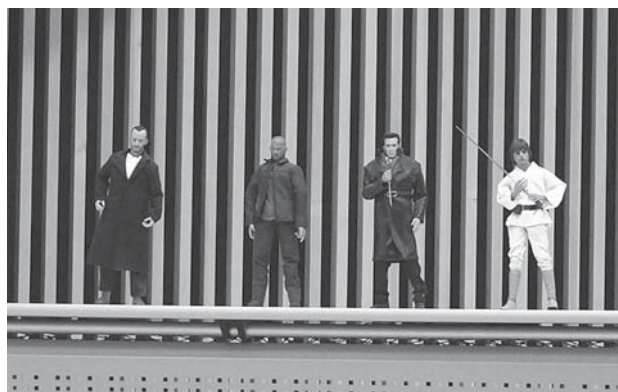
その後の会場との意見交換の場でも、教育現場や職場での支援の立場にある住民の方々からのご質問、ご意見も多くあり、おふたりの講師

の先生には時間に限りがある中でも、今後につながるようわかりやすく回答いただき、参加された皆様の約70%から満足したとのお声をいただきました。

地域住民への啓発活動については、メディア等から得るさまざまな知識が蔓延している中、何度も繰り返し行っていく必要性を改めて感じた1日となりました。

参加いただきました皆さま方はじめ、企画の段階から多大なるご協力を賜りました山形県立こころの医療センターの皆さまにはこの場を借りて改めて御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

最後に……。須貝先生のお伴の「あの子」たち……。そうです！ 先生が以前この「めでいかすとる」でご紹介されていた「あの子」たちです。当日は先生と共に壇上へ。スライドのあちこちにも登場し、会場の皆さまの注目を一身に集め、大活躍？でした。



鶴岡天腎祭

日時：平成28年10月30日(日) 14：00～16：00

場所：出羽庄内国際村

「ロコモ・どこでもアンチエイ腎good！」

——第8回市民公開セミナー 天腎祭——

鶴岡協立病院 人工透析室
臨床工学技士 加藤 章

平成28年10月30日、出羽庄内国際村ホールに於いて、慢性腎臓病に関連した市民公開セミナー天腎祭が開催されました。当日は穏やかな秋晴れの日曜日、多くの市民の皆さんにご参加いただきました。

私は、司会進行を担当させていただきました。参加された皆さんの一生懸命に学ぼうとする姿勢がひしひしと伝わりとても貴重な経験になりました。

会に先だち新潟大学大学院 医歯学総合研究科 腎医学医療センター 丸山 弘樹教授から、天腎祭のこれまでの経緯についてのお話と、開会のご挨拶がありました。

鶴岡市立荘内病院 内科 真島 佑介先生から、「慢性腎臓病について」と題して、慢性腎臓病がどんな病気なのか、腎臓病のサインを見落とさないこと、腎臓を悪くしないために心がけることを丁寧に説明いただきました。

美咲クリニック・美咲アンチエイジングセンター 理事長 今野 俊幸先生から、「生活習慣病とアンチエイジングーロコモティブシンドローム対策など」抗加齢医学は心身ともに健康に歳を重ねることであり、食事や運動、生きがいなどの生活習慣を変えることが重要視されていることをお話しいただき、参加された会場の皆さんからとても興味深い講演内容でしたとの感想がよせられました。

休憩の時間を利用し「ロコトレでロコモ予防」鶴岡市立荘内病院 理学療法士 佐太木 淳一先生指導による片足立ちやスクワット、つま先立ちや膝痛体操ストレッチを参加者全員で行いました。心地よい運動が体をほぐしリフレッ

シュすることができました。

宮原病院 管理栄養士 奥泉 洋子先生から減塩の工夫「今日から始める腎臓に優しい食事」プッシュワンしょうゆ差しや霧状に出るしょうゆ差しの紹介や、だしを上手にとることで減塩を感じさせない工夫を教えてくださいました。ソースの代わりにケチャップを使う、酢やレモンの酸味を取り入れることなどが、献立の中で味にメリハリをつけることができると減塩のコツを学びました。

鶴岡市立荘内病院 血液浄化療法センターの皆さんの寸劇「まだまだ現役…アモーレ♡伸ばそう健康寿命」は慢性腎臓病の患者さんと家族とのやり取りを庄内弁でコミカルに演じ、患者さんが抱えている不安や悩みを和らげることができたのではないかと思います。

医師会長 土田 兼史先生にご挨拶をいただき、第8回天腎祭を閉会しました。

ご講演をいただきました先生をはじめ、医師会の先生やスタッフの皆様より多大なるご協力をいただきました。天腎祭が生活習慣病の防止、健康維持の啓発活動の一環として市民の皆さんからご理解いただき、末永く継続できますようご支援をお願いいたします。



よろしくお願いします（私の経緯）

美咲クリニック 今野 陽介

はじめまして、今野陽介と申します。

現在、美咲クリニック及び由良診療所にて、整形外科医として勤務しております。私は、大学からこれまでの約20年、ずっと岡山県に住んでいました。岡山県は車だけでなく電車も渡れる瀬戸大橋があり、四国・関西・山陰とつながる要所として栄えていて、日照時間が1位でもないのですが自称「晴れの国」、雨は少なく雪の日も0～数日しかありません。それなのに渇水にもならず、自然災害も少なく過ごしやすい所だったので、ついつい庄内弁を忘れるほどに居ついておりました。

さて、よく川崎市にあると間違われる川崎医科大学で、ほんの数十メートル先から飛び立つドクターヘリを見ながら、学生生活を送りました。主に部活（合気道）に励み、なんとか大学を卒業すると、まず総合力（ドクターヘリにも乗れるかも）と考えて、初期研修は救急部（2008年より救急科）を主軸に行い、そのまま救急部へ入局しました。

その川崎医科大学附属病院救急部は、1次から3次救急まですべてをこなすことを基本方針としています。しかし、入局した当時は医師が少なく、今思えばブラック企業なんのそのという激務で、「寝ていても勝手に体が動いて簡単な指示くらいは出せるように」と指導されつつ、気づけば3ヵ月も日曜祝日関係なく仕事をした日々もありました。久々にとれた休日には言い知れぬ不安に襲われてしまったのもいい思い出です。なお、その1年後には当直・オンコールのみ書いてあった勤務表に、休日も記載

するようになりました。

そんな大学病院なのに野戦病院のような環境下、コメディカルという戦友や、上司にも恵まれたおかげで救急科専門医を取得。この中で救急医療の必要性和同時に、様々な問題も実感させられ、救急部を辞しました。

そして、同大学の整形外科へ入局、主に外傷・脊椎・人工関節の手術を多く経験し、患者さんのADLが回復していくことに満足していましたが、半年ほどリハビリテーションを修練する機会を得たときに、様々な疾患の発症が誘発・抑制される可能性に気づき、そうこうしていると日本整形外科学会のロコモ周知活動が始まり、様々なテレビ番組でも運動・体操を推奨するようになってきました。そして、上司さえ滅多に見たことが無いパターンの子供の骨折を何度も診ているうち（子供の骨折は30年前の2倍になっているようです）に、整形外科医の視点から予防医学について考えていこうと帰郷を決意、昨年4月にUターンしてきました。

そして今、父とともに外来診療を行い、勉強し続ける毎日です。また、ペーパードライバー同然ですが、救急科専門医として微力ながらお役に立てるよう、協立病院で週一回当直も始めました。

皆さま、どうぞよろしくお願いします。



日時：平成28年10月22日(土) 12：00～23日(日) 12：00
場所：日本海一円

平成28年度秋季医師会釣り大会結果報告

つり同好会会長 佐藤 洋司

雨を心配しましたが、磯釣り日和なのでしょうか雨はないものの曇りで風が冷たく感じる天気でした。

今年から1昼夜の勝負と変更してみましたので、大物が出るのではないかと期待していました所、やはり出てきました。それも温海の磯で夕方から夜にかけての数時間の釣りで釣り上げたとのことでした。

我々小物釣り師としては、参ったなあと感じますが、やはりこの方向に行ってほしいと思っていました。今後も大いに期待します。参加人員も19名と増えていまして喜んでおります。後は医師会の先生方の参加が増えることを願っています。

それでは結果をお知らせします。

(敬称略)

優	勝	吉住	忠	大物賞	吉住	忠 (真鯛37cm)
二	位	斎藤	高志	五目賞	佐藤	賢 (7種)
三	位	菅原	翼	外道賞	宮崎	健志 (カニ)
四	位	大山	慎司	小物賞	大山	慎司 (アジ36匹)
五	位	佐藤	洋司	珍魚賞	中村	友洋 (ヒイラギ)



医師会釣り大会へ参加して

吉住 忠

10月23日医師会釣り大会が日本海一円で行われました。

今年度より釣りの開始時間が土曜日午前12時から翌日午前12時までに変更になりました。

今迄は夜中の12時開始の為、午前3時起床で日の出前に現地に着いての釣りでしたが、今回からは午後3時過ぎに出発し夕方から夜にかけて出来るので自分的には理想的な時間帯に変更になりました。

天気も数日前から寒気が入り、雨が降ったり止んだり、晴れ間が出たりと釣りに適した波の状態でした。

大会当日の予報では1.5mの波高と聞いていましたが、温海の磯場へ着くと2～3mの波があり思っていた岩場は波に覆われているので数メートル高い岩場へ陣取りました。

今年に入り初めての釣りで、1 投目を投げ、エサが底へ着くと軽いアタリがあり上げて見ると10センチ位のベラでした。直ぐに2 投目を入れるとアブラコが立て続けに2 匹上がりました。

エサ取りのフグは少なく暫くするとドン！とアタリが出たので「来た！」と思い竿を上げたところ、1 回の引きで何の抵抗も無く、すーと上がって来ました。この時期にしては珍しい？！20 cm位のタナゴでした。

それから暫くはエビの頭だけ取られたり、エサが残ったりと沖に投げればアジ、手前に投げれば何かの気配？！とハッキリしない状態が続いた……。

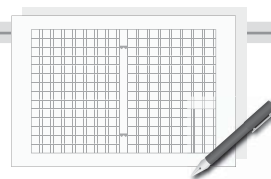
モゾモゾと竿先から伝わる違和感……少し竿を上げて見ると竿先が重くなったので一気に竿を上げるとググググッと強い引き……（数年ぶりの手ごたえ）一緒に行ったT君から網で上げてもらった所、釣り堀以外では初の30cmオーバーの真鯛でした。それから少しの間投げてはみたものの本命の黒鯛の姿は今回も見ることすら出来ず午後8時過ぎに納竿。

翌日の午後3時30分の計量の為3時過ぎには医師会館へ行ったところ、ほとんどの参加者が集まって計量を終えていました。今年は魚の種類も豊富でアジなどは発砲スチロールへ入れて持参した水産業者並みの漁獲量の方も居りました。

引き続き懇親会へ入りました。今年の参加者は去年の10名に対し19名と2 倍の参加人数で最近の出席率ではここ数年ない会でした。今回は総務課の職員の方の参加もあり久々の女性3名の参加で賑やかな会になりました。懇親会場の準備等、大変ご苦勞様でした。

来年度の釣り大会も今回同様に多くの方が参加して頂ければと願っております。

原 稿 募 集 中 ！



趣味・話題・旅行記・思い出があるもの・大切な思い出の
出来事等なんでも構いません。 総務課までご一報を！

表 紙

「 雷鳥と散歩 」

伊藤 信之

初めて行った北アルプスは、鏡平を過ぎたあたりからあいにくの雨とガスでしたが、ラッキーなことに4羽の雷鳥家族と遭遇！ しばし一緒にお散歩を楽しみました。

編 集 後 記

11月に入り北海道では平地でも降雪のニュースが聞かれるようになりました。今年も残すところ1か月半となりあっという間に時が過ぎていきます。地球上いたところで異常気象が見られ、日本からは春と秋がほとんど無くなったように思えます。局地的な大雪、異常な早さでの台風襲来、しかも900hpaなど今まで日本では聞いたこともないくらい的大型台風、竜巻の多発、ゲリラ豪雨など地球温暖化防止対策は地球人としての義務であると思います。国際的には先日パリ協定が成立し日本は少々乗り遅れた感があります。知識と技術を集結して温暖化防止に取り組んでもらいたいと思います。後世に悔いを残さないという点では医療制度の改革も待ったなしです。地域医療構想も原案ができ2025年には過不足のない医療の提供がなされるように考えられてきました。特に在宅医療の推進が必要と言われますが、過疎、高齢化世帯が多い地域では困難な課題です。特に老々介護、高齢者単身世帯など地域社会として考えなければならない問題点は多くあります。医療のみならず介護提供も考え体制を作らなければなりません。ここにも知恵と技術が必要とされます。会員の皆様のご活躍をお願いいたします。

(三科 武)

編集委員：三浦道治・小野俊孝・福原晶子・三科 武・佐久間正幸・木根淵智子・渡邊秀平

発 行 所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1－34

TEL 0235－22－0136 FAX 0235－25－0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jpホームページにも掲載しております 鶴岡地区医師会 検索 URL <http://www.tsuruoka-med.jp>